

デンソー山岳部 2016年度 夏山合宿報告書

■山城 南アルプス - 聖岳、赤石岳、荒川三山 -

■日程 平成28(2016)年8月13日~8月16日

■メンバー 方田智貴 (CL, 装備) 松浦英樹 (SL) 神戸和広 (渉外) 山口達哉 (装備)
根芝亮子 (記録) 舘谷昌弥 (食料) 杉本孝 (会計) 天野広 (気象)

<第1日> 8/13 (土) 曇り時々晴れ [根芝 記]

【行動記録】 歩行時間=6H30M(休憩含む) 累積標高 (+) 1390m、(-) 250m

畑薙臨時駐車場 起床 (5:30) — 聖岳登山口行きバス停 (06:15) — バス乗車 (07:40)

— 聖岳登山口着 (08:30) — 聖岳登山口発 (08:40) — 1本 (09:15-25) — 1本 (09:55-10:05)

— 造林小屋 1本 (11:05-35 先発隊・後発隊に分かれる) — 乗越 1本 (12:20-25) — 滝見台付近 1本 (13:15-20) — 1本 (14:20-25) — 聖平小屋着 (先発隊 14:45、後発隊 15:15)

公の情報ではバスの始発は7:30であったが、杉本さんの「繁忙期は臨時バスを出すのでは」との進言により、6:15には畑薙臨時駐車場すぐ横のバス停へ。しかし、既に4,50人ほど並んでいる。7時前には2台のバスが来たが、惜しくも我々まで順番は回ってこなかった。結局1時間半近くバスを待つことに。もっと早くバス停に並ぶべきだった。

バスに乗ってからも苦行だった。悪路の峠道を、重いザックを膝に載せた状態で揺られていく。バス内は登山客とそのザックがこれでもかと詰め込まれ、身動きをとることもできない。やっとの思いで聖岳登山口に到着した時には、全員が既に疲れ切った顔をしていた。

聖岳登山口から登り始めてすぐ、急登になる。道は悪くないが、景色には変化がなく、疲れを紛らわすことができない。細目に休憩をとりながら歩く。しかし、段々と遅れてくるメンバーが出始めた。まだ元気なメンバーがお疲れ組の荷物を引き受けるも、ペースは上がらない。すれ違った下山客から、聖平小屋のテント場がけっこう埋まっていたという情報を聞いたこともあり、造林小屋時点で先発隊と後発隊に分けることに決定した。

先発隊が聖平小屋に到着すると、確かに小屋近くのテント場は埋まっていたが、沢を挟んで少し離れたところにはV8とエスパースを広げられるスペースが残っていた(とはいえ、その後も続々と登山客が到着したため、割とぎりぎりだったと思う)。小屋では登山客のためにウェルカムフルーツポンチがふるまわれており、疲れた体にしみわたった。

夕飯は、本格的なハヤシライスと本格的なサラダ。山でたくさん野菜がとれるのは嬉しい。おつまみにはグリルしたソーセージと剣先イカ等々、ビールが進むラインナップだったが、まだ初日なのでセーブしつつ飲む。明日の行動予定を話し合い、計画より早く出発することになったため、7時ごろには就寝となった。

<第2日> 8/14 (日) 雨のち晴れ【山口 記】

【行動記録】 歩行時間=9H00M(休憩含む) 累積標高 (+) 1470m、(-) 1250m

2:00 起床 → 4:00 聖平小屋テント場発 → 5:01 小聖岳手前 一本 → 5:36 小聖岳 → 6:59 聖岳 一本 → 7:45 一本 → 8:24 聖兎のコル 一本 → 9:29 兎岳 一本 → 10:13 コル 一本 → 11:08 小兎岳 一本 → 11:43 中盛丸山 一本 → 13:00 百間洞山の家テント場着 → 19:00 就寝

できるだけ早めに出発するため2時に起床。朝食は手軽に済ませるためランチパック&スープ。時おり雨がテントに当たる音を聞き、2日目の行動に多少の不安を抱きながら身支度を整えるが、テント撤収時はあいにく本降りの雨となってしまった。V8&エスパースが雨水を吸ってしまいテント本体がかなりの重量増になってしまった。

4時にテント場を出発し、聖岳登頂を目指す。ヘッドライトを点けながらの歩行のため道迷いに注意し

ながら進んでいく。5時くらいから雨はほとんど無くなり、合羽を脱いで上りの登山道を進んで行き、5:36にまずは小聖岳に登頂。この頃から多少の晴れ間も見えるようになる。小聖岳～聖岳はヤセ尾根を歩くため注意しながら登っていき、6:59に聖岳に登頂。霧で展望は全く無く、少し残念だった。

その後は聖岳～兎岳～小兎岳～中盛丸山と各ピークを尾根沿いに歩いていくルートだが、岩場や急坂も多く、非常に神経を使う登山道であった。また兎岳以降は晴天に恵まれたが、風があまり吹かなかったため非常に暑く各メンバーの体力消耗は相当なものであった。

中盛丸山に到着する頃にはかなりの疲労が見えるメンバーもいたため、大沢岳へピストンで行くメンバーと、2日目のテント場である百間洞山の家へ直接行くメンバーとに別れて行動することになった。百間洞山の家への直行組は13:00に山小屋に到着。大沢岳ピストン組はその約40分後に到着。

百間洞山をの家のテント場は小屋とは5分程度離れており、水場やトイレも小屋にしかなく、少々不便であると感じた。夕食はパスタ&ポテトサラダ。コショウの効いたポテトサラダは絶品であった。

翌日はメンバー全員で荒川三山に登頂するぞ！という思いを抱きながら就寝。

<第3日> 8/15(月) 霧雨一時晴れのち雨 【神戸記】

【行動記録】 歩行時間=10H25M(休憩含む) 累積標高(+)-1520m、(-)-1390m

起床(2:00) — 百間洞露营地発(3:50) — 百間平 ウェア調整(4:40-45) —

赤石岳取付き 1本(5:45-50) — 赤石避難小屋 1本(6:30-55) — 赤石岳(7:00) — 小赤石岳 A隊B隊分離(7:30-35) — 大聖寺平 1本(A:8:05-10、B:やや先で1本8:25-35) — 荒川小屋 1本(A:8:50-9:00、B:8:55-9:25) — 高山植物保護ゲート付近 1本(B:10:15-20) — 荒川前岳分岐、前岳往復(A:10:15-35、B:10:50-11:05) — 中岳(A:10:50、B:11:15) — 中岳避難小屋(A:10:55-11:05、B:11:15-45 ウェア調整、1本) — 3100m付近 1本(B:12:25-30) — 荒川東岳(A:12:20、B:12:45) — 丸山(A:12:50、B:13:05) — 千枚岳 1本(A:13:30-45、B:13:40-50) — 千枚小屋着(AB合流14:15) — 食事(18:00-30) — 就寝(19:00-20:00)

3日目も朝から霧雨の中だったが、前日よりテント撤収の手際が良く早めの出発となった。また霧が晴れるのも1時間以上早く、急登を終えた百間平の辺りからガスが下降していき、目の前の赤石岳は言うに及ばず、南ア北部、中央アルプスまでも眺めが良く皆が写真に興じる時間となった。赤石岳は昨日見た距離よりも近く、名前通りまさに赤石山脈の盟主というべき大きな存在だ。写真やテレビではわからない大きさだ。SLの体調も復活したらしく赤石岳西稜の赤い岩がごつごつした登山道を一気に駆け上がっていく。赤石避難小屋まで上がると富士山の眺望も楽しむ人も出てきた。ここでの長めの休憩の後、小赤石岳でとうとう体調不良者を方田CLがサポートしパーティを分けることになった。先行隊(A隊)は体調の良い天野さんが先頭で松浦さんがリーダー。後発隊(B隊)は私先頭、杉本さん、方田リーダーという構成。しかし全体では、予定通りだったので赤石分岐から樫島に降りるエスケープルートをとらず荒川三山を目指す予定通りの行動をとることとなった。B隊は小赤石の下りではそれほど引き離されず、体調不良者は大聖寺平で飲んだ胃腸薬のせい、Aバイタルのせい、一気に回復してしまい、B隊は荒川小屋でA隊に追いついてしまった。A隊との時間差が休憩時間の差のような状態だった。しかしB隊は水補給で時間をかけ、また20分以上の差となった。この頃から麓からのガスがどんどん上がっていき、B隊が前岳の稜線にたどり着いた時にはガスの中となり、とうとう11時半頃の降雨で雨具を着用することになった。B隊は中岳避難小屋での休憩中に降り出したのでそこで着用したが、A隊は荒川東岳が近かったため濡れつつも進んでしまったようだ。稜線では比較的風が強い傾向があるので早めの雨具着用に心掛けたい。とは言え今回の合宿では風は弱く恵まれた方だと言える。B隊は雨で視界が悪い中黙々と歩き、今回最高標高の荒川東岳を個人写真の撮影だけに留め、さっさと通り過ぎた。お花畑を楽しみ1時間ほどで岩場を2か所通過すると千枚岳にてA隊に一旦追いついたが、斜面手前で休憩していた神戸・杉本は気づかずにいた。その後は千枚小屋まで下り一辺倒だったので下りに強いB隊はA隊が小屋に到着する直前で追いついた。濡れた雨具や衣服を小屋の中の暖房のついた場所で乾燥し、快適な状態で、夕食の時間となった。前日から抜きつ、抜かれつだった単独行のJTEKTのN谷さんとの語らいも楽しく、今回の合宿の余韻をかみしめた。

<第4日> 8/16(火) 雨のち晴れ [天野 記]

【行動記録】 歩行時間=5H10M(休憩含む) 累積標高(+)-140m、(-)1640m
 起床(3:50)-千枚小屋発(4:05)-見晴台(5:00-15)-小石下(6:30-40)-鉄塔下(8:00-15)-樫島(9:15)着
 -樫島(10:20)発⇒畑薙臨時駐車場(11:20)着

今朝も小雨が降っている。三日間連続だ。しかし今日はほぼ下りのみの行程なので気が楽だ。小屋の朝食をおいしく頂き、準備すると雨が本格的に降り出したのでカッパを着込む。バスの時間が気になるのか、先頭の二人は速足で下って行く。自分は下りが苦手のため、ケガの無いようにマイペースで歩く。雨が上がってきたので、見晴台でカッパを脱ぎ一本取る。湿気が多い樹林のなかを順調に進み小石下で一本取った。ここまでは良いペースだ。鉄塔への最後の登りに掛かるが、これが結構厳しい岩尾根でとても登り辛く、疲れた体にこたえた。慎重に通過し鉄塔下で一本とる。ここで2日目から知り合ったジェイテクトの中谷さんに追いつかれた。ここからの下りも険しく、疲れた体に鞭を打ち下っていくと吊橋があり、渡るとやっと楽な路となった。樫島に到着しバスの手続きを済ませた。約一時間後の出発までくつろぎの時間となる。若手の数人は大井川に浸かり汗を流した。私はソフトクリームを食べ、自分にご褒美とした。

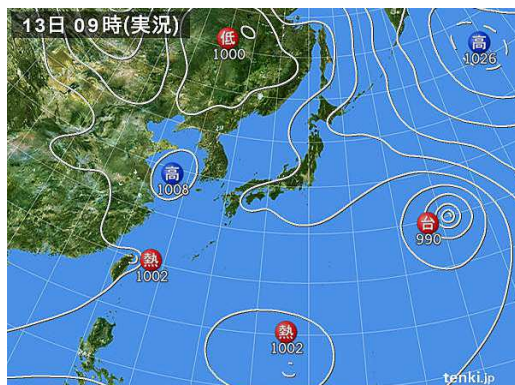
<装備所見> [山口 記]

夏合宿ということもあり個人装備が軽いため、8人に対してテントはV8&エスパースという余裕のある選択をした。しかしテント場を出発するとき雨が多く、テントが雨水を吸って重くなってしまったことにより、体力消費をしてしまうメンバーもいたため、注意が必要である。ガスは3缶用意したが、消費量がそこまで多くなく、1缶はまったく使わないで済んだため2缶で十分であると思われる。

<気象報告> [天野 記]

今回も大矢さんの天気予報サポートをいただいた。ありがとうございます。

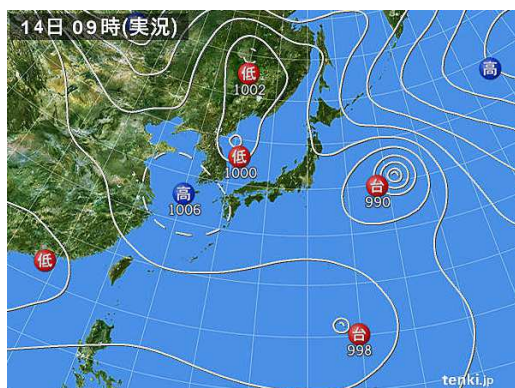
「午後からは雷雲発生しやすく早立早着」の助言を実行し、概ね快適な山行が出来ました。



第1日目(8/13)

晴れ時々曇り 夜半より雨

テントに雨がパラツキ、翌日朝方まで降っていた。

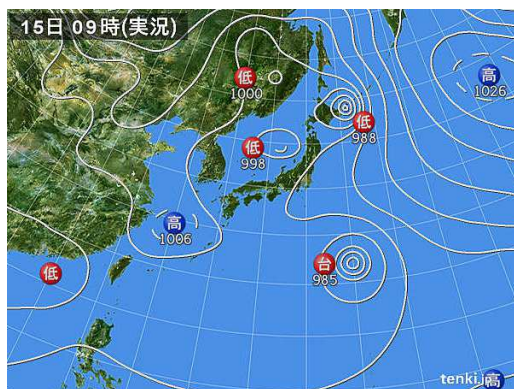


第2日目(8/14)

出発時4:00頃 雨、5:30頃雨が上がりのち晴れ、夜半より雨

雨の中のテント撤収だったが、小聖岳ではやみ後は快適に歩けた。

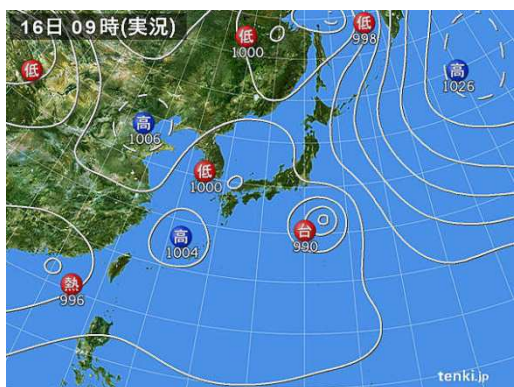
前日同様、夜半より雨がパラツキ、朝方まで時々降っていた。



第3日目(8/15)

出発時 4:00 頃 雨、5:00 頃雨が上がり、のち晴れ、11:00 頃より雨、14:00 頃より曇り

百間平では雨が上がり、赤石岳では眺望が素晴らしかった。荒川中岳の辺りで雨が降りだし、悪沢岳では本降り、千枚岳に到着すると上がった。



第4日目(8/16)

出発時 4:00 頃 雨、5:00 頃雨が上がり、のち晴れ

起床すると霧だったが、出発時には雨が降り出した。雨が上がったあと快晴になった

<食料> [館谷 記]

- 1 日目夕食：ハヤシライス (6 合/8 人)、生野菜サラダ
- 2 日目朝食：パン(ランチパック)、魚肉ソーセージ、スープ
- 2 日目夕食：和風パスタ、ポテトサラダ
- 3 日目朝食：ラーメン(餅、ワンタン入り)
- 3 日目夕食：小屋食
- 4 日目朝食：小屋食

- ・初日のハヤシライスの牛肉とサラダの野菜は、傷まないか心配だったが、保冷バッグに氷と共に入れることで無事テント場まで運ぶことができた。
- ・大人数分の麺類は取り分ける手間がかかるため、1 人分が入っているリフィルなどを活用するべきだと感じた。
- ・米の量は人数だけでなく、メンバーや個々人の体調にもよるため、難しい。ふりかけなどを持参し、おにぎりにすることで翌日の行動食にすることができる。

<会計報告> [杉本 記]

収入

項目	小計	備考
会費 (8 名)	126,400	15,800×8 人
合計	126,400	

支出

項目		備考
高速代	12,280	往復(2 台)

ガソリン代	12,320	
車消耗費	4,000	5円×400km(往復)2台
露営代	10,400	8名
小屋泊	72,800	8名
食材	14,600	
合計	126,400	

※差し入れ

OBの不破さんより 牛しぐれ煮(2袋)頂きました。
有難うございました。

<リーダー所見> [方田 記]

今回計画した南アルプス南部縦走は、一つ一つの山が雄大で、自然の中に浸ることが出来き、実りのある充実した山行になった。特に、2日目以降は、朝方雨が降り、その中でのテント撤収、定刻通りの出発、ヘッドライトを付けての縦走を経験できた。また、10時間近くの行動を遂行できたことは、メンバーの頑張りによるものだと感じる。ただ、朝起きてからテント撤収までの時間の使い方については、まだ工夫できる余地があると感じた(全体作業優先;朝食準備、テント撤収など)。

朝靄にうっすら浮かぶ赤石岳、赤石岳山頂から望む荒川三山は雄大で素晴らしく、眼下に雲海を眺めながら、遙か彼方に見える富士山には感動した。これらを感じさせてくれたメンバーに感謝、天気にも感謝、南アルプスに感謝。また来たい。

また、今回も気象サポートとして大矢さんから情報を頂いた。近くにこのような専門家がいる環境にも感謝したい。

<サブリーダー所見> [松浦 記]

個人的にもものすごく行きたい山域であり、奥深い南アルプスを堪能したく、久しぶりに夏合宿に参加した。初日は運転の疲れや睡眠不足から体調が悪く、歩行ペースが遅くなってしまったが、2日目以降からは体調回復し、聖岳、赤石岳、荒川三山と3000m級の山々を楽しく縦走することができた。今回の合宿はSLを任命されパーティーの先頭を歩いたが、それぞれの歩行ペースの違いに戸惑い自分の歩行ペースを合わせるのに苦労した。ロング縦走時の荷物の量、歩行ペースなど改善する課題が見えた。

<メンバー感想>

【天野】

61歳となり体力が持つか心配だったが、次の内容から参加する事にした。

- ① まだ登っていない聖岳・兎岳・中盛丸山・大沢岳に登りたい気持ち
- ② 3年前に逆回りで行った「荒川小屋から小赤石岳」への登りの行程を確かめる
(今までの山行で一番苦しかった登り)

体力面では「呼吸を深く行い、ゆっくり登る」ことでまだ頑張れる事が分かり、嬉しかった。

久しぶりの雨中歩行を経験したが、3日間とも1時間ほどで上がり気持ち良く歩けた。

メンバーも良くテンバ・小屋でのくつろぎ時間が楽しく過ごせた。

山仲間にも感謝します。ありがとうございました。

【神戸】

夏山合宿の参加は12年の北海道以来で、自分の体力不足が心配だったが、まさに露呈してしまい、皆さんに迷惑をかけた。毎回言っているが体重を絞らないと合宿は言うに及ばず、雪山も無理があると思う。今度こそ反省し減量努力をしたい。ベテラン部員の抜けた中で50代以上のメンバとなり、たいして成長

していない自分にカツを入れたい。一方で若い人たちとの山行は大変楽しみにしていて、彼らの考え方を
知る機会でもあり事実楽しかった。アプローチも行程も大変な南アルプスを彼らと一緒に歩いて印象に残
る良い山行だった。

【杉本】

2日目の聖岳山頂のガスと強風には残念だったが、その後晴れて兎岳、中盛丸山、大沢岳とそこから見
る、赤石岳は、とてもでかく偉大だった。また3日目も途中から雨となり、荒川岳からの眺望が見られな
かったのは残念である。今回は、私と歩く初めての若手部員も多く、コミュニケーションをとる良い機会
でもあり、山を楽しむ達成感、充実感を味わう事ができ、有難う御座いました。最後に、南アルプスは数
回来ているが、何回来ててもアプローチは大変であると感じました。

【館谷】

初めての南アルプス南部は、スケールの大きさにただただ圧倒される山域でした。人里を離れた奥深い
山々は、刈谷の喧噪を忘れさせてくれ、雄大な自然を楽しむことができました。アプローチの悪さは勘弁
願いたいですが。

今山行で食事担当をしたことで、夏山の食事を考え直す良いきっかけとなりました。スーパーで常温保
存可のものをつい探してしまいます。

毎朝の雨には気が滅入りましたが、悪天候時のテントの撤収などを経験でき、自身のレベルアップに繋が
ったと思います。

【根芝】

初めての夏合宿、初めての3日以上の中継山行でしたが、夏山シーズンに入ってからほぼ毎週山に登って
いることもあり、正直ついていける自信がありました。しかし、蓋を開けてみれば、歩いても歩いてもつか
ない山頂、登っては下らされまた登っては下らされ、なぜトラバースルートを作ってくれなかったのかと
東海フォレストを恨めしく思ったり。しかも、今回も見事に雨女っぷりを発揮してしまうし。

それでも不思議なもので、下山してみると「けっこう楽しかったかも」と思っている自分がいて、向こ
う5年は南アルプスはお腹いっぱいかなと言いつつも、もしかしたら来年もまた登りに行っているのかも
しれません。

【山口】

2日目の体力消耗が激しく、3日目の行動時間の長さにかかなりの不安がありましたが、方田リーダーの
「みんなで一緒に荒川三山に登りましょう！」という言葉を受け、なんとか歩ききることができました。
やはり前向きな気持ちは必要ですね。雨もありましたが、みんなで協力し合いながら過ごした4日間は素
晴らしい思い出になりました。皆さんありがとうございました！



赤石岳にて